

科 目	地域・在宅看護演習				
時間数	1単位 30 時間	授業方法	講義、演習	授業時期	2年
講師名	③近藤志美				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	地域で生活する健康問題や障害のある人とその家族を支えるケアシステムにおける訪問看護の特性を理解し、活動に必要な基礎的な知識と技術を習得する。				
目 標	1. 対象特性に応じたアセスメントの方法について説明できる。 2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に説明できる。 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。				
授業計画					
回	内容				
1	訪問看護技術				
2	在宅療養生活を支える基本的な技術① コミュニケーション、アセスメント技術、環境整備				
3	在宅療養生活を支える基本的な技術② 生活リハビリテーション、感染予防、ターミナルケア				
4	日常生活を支える看護技術① 食生活、排泄、清潔				
5	日常生活を支える看護技術② 肢位の保持と移動、呼吸、睡眠				
6	療養を支える看護技術(医療ケア)① 原理原則、薬物療法、化学療法、インスリン自己注射				
7	療養を支える看護技術(医療ケア)② 排痰ケア、気管カニューレ管理				
8	療養を支える看護技術(医療ケア)③ 在宅酸素療法 HOT、HMV(NPPV、TPPV)				
9	療養を支える看護技術(医療ケア)④ 排尿ケア、ストーマ管理、在宅経管栄養法、輸液管理				
10	療養を支える看護技術(医療ケア)⑤ 褥瘡管理、足病変のケア、CAPD、疼痛管理				
11	在宅療養を支える健康危機・災害対策				
12	事例で学ぶ在宅看護の技術① 医療依存度の高い在宅療養者				
13	事例で学ぶ在宅看護の技術② 医療的ケア児の在宅療養				
14	事例で学ぶ在宅看護の技術③ 最後まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者				
15	まとめ				
評価方法	終講時に筆記試験を行った結果及び平素の学習状況を総合して 100 点満点で評価する。 60 点以上を及第点とする。				
教科書	地域・在宅看護の実践 医学書院 サブテキスト)地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版				